

新朗読劇「私たち、
Part II」への道

新朗読劇「私たち、
Part II」が2016年
12月4日、神戸市立
地域人材支援センター
で上演された。



「大勢の人々の前
で、6名の出演者は少
し緊張気味に、しかし
はつきりとした口
調で語り始め
た。」

「なに人」ですか？
「なに人」ですか？
「なに人」ですか？

神戸地裁判決10周年の記念集会で、コスモスの会が朗読劇をする事になったと聞かされたのは5月のことだった。

7月11日、毎日新聞夕刊に載った元兵庫原告団長初田さんの記事の「中国残留孤児や2世3世が、今なお抱える問題を訴え続けた」という言葉に衝撃を受けた。

「この制度は働く人が報われず、働かないことを奨励している」「政府が責任を認めたらなくては、同情の立場で作った制度だ。」



「勝訴してもいまだに幸せを感じることはあまりない。中国の友人たちは老後を自由に生き生きと楽しく過ごしているのに」

「私たちが本人確認証にはどうして写真が必要なのか。生活保護受給者証には要らないのに」

「戦争反対」
孤児たちの心からの叫びとともに朗読劇の幕は下りた。

交流の広場

交流会
孤児に寄せる思
いは同じ

10月25日(火)
は尼崎日本語恒例のバスツアーです。朝の天気は曇り雨が降らないことを願いながらバスはほぼ定時に出発しました。

今回のメインは「奈良婦国者支援交流会」と「コスモスの会」と

の交流会です。奈良に向かう途中から本降り、会場の「東福祉センター」に少し遅れて到着。結局開会が30分遅れとなり、相手方に迷惑をかけました。

えました。アトラクションでは、彼らの本格的な二胡演奏や練習を重ね、さらびやかな衣装をまとったヤンガーは見応えがありました。私たちが一年一回のフラダンスの練習風景を紹介しました。踊りは未熟ですが、フラの衣装やレイを着けて楽しく踊りました。

「妻は日本語が話せないで、デイサービスに行く時、自分が付き添っている」
「私たちにはお墓がない。だれが買うのか

「二度と戦争で国民を犠牲にするな」
「二度と残留孤児をつくるな」

「日本全国の仲間や支援者として進もう」と
「二度と戦争で国民を犠牲にするな」
「二度と残留孤児をつくるな」



奈良県立民俗博物館で記念撮影

交流の時間は過ぎました。最後に会場の周りをみんなどきやんがーを踊り、あつと言間に楽しい交流の時間は過ぎました。

金魚の泳ぐ城下町
楽しい買物タイムの次は隣の郡山市へ移動。雨もすっかり上り、太陽が顔を出しています。風情のある町屋が並び、傍らを流れる川

には金魚が泳いでいます。お待ちかねの「金魚すくい大会」の始まり！子供のころの夜店や祭り以来、中には生まれて初めてという人もいました。組み合わせによる運、不運はあっても沢山すくったら一番。皆、真剣な顔で金魚とにらめっこ。この時ばかりは童心にかえりました。結果は見事15匹すくった石原さんが一位でした。

秋の夕暮れ
それから近くにある奈良県立大和民族公園にある民族博物館を訪れました。時間がなく、この広大な公園は記念写真を撮っただけで出発。まもなく、車窓から法起寺の三重塔が見え、辺りはコスモスが咲き乱れています。遠くを望めば、雲海ただよう秋の夕暮れです。

「お腹を空かせて待つのは嫌」、「自分で作っても美味しいものが食



年末恒例の生け花教室
講師は石井敏子先生でした

文化教室の歩み
6月 フラワーアレンジメント
9月 手芸
11月 料理教室
12月 生け花教室

最近の行事
9月24日 手芸教室
10月25日 交流ツアー
11月13日 料理教室
12月4日 神戸地裁勝訴判決10周年集会へ参加
12月10日 生け花教室

(吉村清美)

中国男性、料理上手が多いのはなぜ？
一 毛沢東時代に男女平等思想が広まった。
二 夫婦共働きが普通なので、早く帰ったほうが夕食の支度をする。

三 女性は料理作りの他に、家事・育児などがあり大変だと夫が思い、夫婦の情愛から夫が料理を受け持つ。
四 妻の作る料理がまずい場合は、夫は自分が作る。

料理教室「日本の家庭料理」には男性の学習者も参加しました
「日本でも公民館の「男の料理教室」は人気が高いようです。男子大いに厨房に入る！」
「日本でも公民館の「男の料理教室」は人気が高いようです。男子大いに厨房に入る！」

(山本育子)